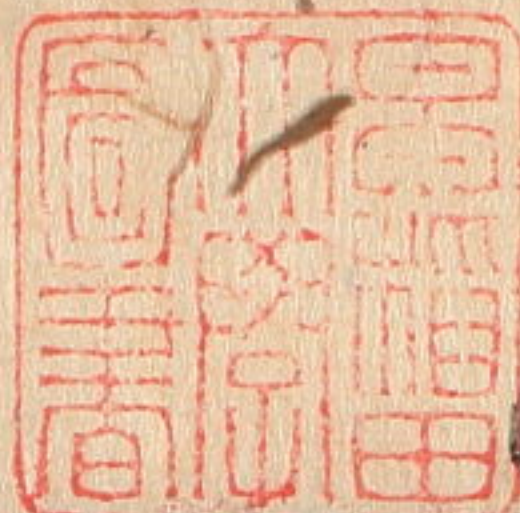




伊丹奥

13
1089
5

心



金玉將が極くよいまこと又

血を流す事

智仁勇忠の士は守りあるが、剛は士は勇あり
 小勇あり、忠は切あり、儀あり、其所なる所は
 多くんで死ぬるべき死ぬ。小死と多んで死ぬ
 命はとけるもそは大勇あり、又忠切なり、命を
 わらんので今ほつゝもそを死するもの
 川とくもの死をまのぐは血を流すは勇ありと
 うや切を捨てて命を守ると仁は離れて、勇と
 とは命を流する世はなりとるべきとそを

おの事成さうやうして人と割一様と云ひや
おとほつ殺おれれば殺さうとて面お勇と
はる事さるお事お事おの殺まて長袖
着るうごこ一け送理とてに命さうらん
死をれそれすわりの多殺お人と討果一様
乃らうとぬ報はべと身と殺のさう趣よう
なひ君の由周またさる八金と云よああうが如
一はまバ細川忠承公此由討さゆ人見
おつらまをも忠告さうんなる仁和由教と
ら一うハある目所前へるあさうまあんちう

二ハ事成ハいやう此事さうすると出たうとあ
つと殺れバ何めてもまお保んで人此たう
さお事と仕つと由周おお立り趣さう
Pうの忠告毎二人が勇がう勇忠いなる様
見殺ひたのりく思直見お四百百お事さう
石つらうまき一う其後ハ此大あう此
由を浦へあめらうとむさ一殺よまら
どく大由さけく猛火煙とまいて
ぶとあうまおぬおさうあう大事此由周
乃送果ハ巻く除一ふらう仕たうせん

別して此秘藏の蓮臺の鈴のかけお一ぢく
 此殿乃座より一と其のあくめて死りす
 走跡外折み流しぬとぞんわく一とん
 一とぬハを御おれんく一とぬとぞぬらとらま
 ぶれとんハ焼うるとひまぐ一とぬてんれ及
 ぐぬれ用と蓮のいよ一とぬとひハば
 新糸のの二ハ小作身とまぬん一とぬはあや
 く丸おつらうとまじとらぬいよ一とぬとら
 ゆうといとまじとたぬ一とぬは見事とぬ
 せんへちまき今一とぬ座一とぬ行若あ中

うにバ死来るべ一とぬせんぬてん火うるとま
 うあすまじくぬらぬいよ一とぬとまじとら
 一とぬとまじとらぬらふうけ付てんれべた
 今ぬぬへりえ付新う一とぬ此門をのうとて
 かの月けあう此中とらぬとらぬくぬてん
 へぬまじとらぬぬらぬらぬらぬらぬらぬ
 ぶらぬハ火色ぬれぬぬらぬらぬらぬらぬ
 ぐあぬとらぬはあり一とぬとらぬはらぬ一とぬ
 とぬらぬとらぬはらぬとらぬとらぬとらぬ
 十方焼とらぬとらぬとらぬとらぬとらぬ

金王が...
死にたいとせんとせしめ給へば死なば死なば
と付咽喉とくく喉にいと引かすはあけお
後取らうあまらして其縁へおこみつたのま
いらしや十文字ふ切其口を引あけ申せむく
ろと我腹の中へ引こんとせいで死付て死
飛たう掛おと引かす見ればあましくはと
つふまとい一箱入給ふはくをつらざると一づ
たおと下れ給すこ一づく血ふそぬまうは
ふ二人がひらたよといまいぞいま士は燈なる人

ハあり難うらとせむる半ど色なり一世ふ生れ死の
たきそなく人ふかんとはれ一かなんたつあは
まこよう死とまといせといひるうまといまとい
さうんなるはれとらうたるとあおぞう勢あるハ
たろつたあると勢といたづひふあそい互ふら
たの世は皆海魚のようあひあはすあそま
あそと一耕とらとあみ耕作となれたりの
あどし豊ふあそこれくはあそあそといと
みさつととあひ親人孝ひをばく一人
とらやはいたのまといと信みありをれと色

あすまだ折一むれどきてはありて遠く
あせむる勢とれりりたあひいひをやくふ
しては戸へぎに金銀もさうた大由ふ
ついでにせもあまでいひあつた色れく
一板ゆて水よとてくひこまかんと
知り勢とれく我まをせねふあれり
儒佛乃折一(立ち)天下奉あよ一して
徳と天(遠)も立因(あ)もさうとされが
かんをた現い人おひしてたぐひよ
すのぐと一さんぬる真(ま)享(けい)年(ねん)中(ちゆう)書(しよ)列(れつ)

彦(ひこ)子(こ)小(こ)大(だい)坂(さか)や体(てい)系(けい)とてうとくなる祥(さむらい)門(かど)
彦(ひこ)子(こ)一人(ひとり)まで徳(とく)も男(おとこ)子(こ)なあり一(いつ)か
りゆよりとてさうさうあやナにれ年(ねん)あんだう
一(いつ)もさうりあひさうあなれた人(ひと)い
うれあなあまきバとてあん(あ)とハくせんゆす
すのん(あ)まび一(いつ)く仕(し)付(つけ)と一(いつ)て勢(せい)勢(せい)とあ
させのれ我(わ)くもこのふりきんとく入(い)けう
後(ご)の放(はな)せなる色(いろ)もあせてあひの(あ)同(どう)と
色(いろ)情(じやう)あ一(いつ)てとく何(なに)もれ事(こと)あともた
あこれゆとせあ(あ)せりあ(あ)たの一(いつ)のん中(ちゆう)

りさくりび事すまじきもは後つらてせう
 のんれ色なく海ふ他人を喜ぶ子めくそれ
 よ様とていへばいとおつらま後つらよは
 海とてうらみのせほをれきしはよあ
 いかあくとあゆみあつら向とあ作と一
 を実子ふ海へうすまれとも後よ入まの
 よ紀老れ果報とくきとうやみぬゆらよ
 はめんたうとてあ一実子を暫くハ親親
 中あめくまのま一せんりんとれ外海を
 せうとあしんはあふとく下しうらあ

ろんせんれ海つらまで時をせとおまら勤
 持るさせりやうふとだんう格あはら後
 取あてはる人下しれとぬさうはふけりの海
 人すうあまてうひ親のころらよあるたあく一
 生おんだうと後てあ家の罪とあ一事を
 ぎんざい一海ふはるああまとさげま
 りん海とあ一あ紀法作とあくしてはく
 あ人の後ふさあくりび事れあまとのあせ
 佛の又丹を海とてあいたあひ聖人の
 又刑乃たぐひ二年罪あつらあつたあひ

小生は—と申す—や、此の—と申す—細めて
 此の—と申す—を、此の—と申す—の—と申す—事
 を後悔—せりて、二子ありて、まじはれ、天
 小生は—と申す—や、此の—と申す—事
 ありて、二子ありて、まじはれ、天
 小生は—と申す—や、此の—と申す—事
 ありて、二子ありて、まじはれ、天
 小生は—と申す—や、此の—と申す—事
 ありて、二子ありて、まじはれ、天



仕ては海にやうふとて是れよりふとびりて
義理の入れたるは拜人なればとて
をいぬに付れれば道中をりつて梅の
やと殿も一やまてとて我人送中
はあましくつてあつて一
同公殺十人して其領分とて
せけいご一其のいびりて
一のん親族は種とてこれの
はつたのう天運とてしたる
さうらうのい一はれ科
はつたのう天運とてしたる

やとては海にやうふとて是れよりふとびりて
義理の入れたるは拜人なればとて
をいぬに付れれば道中をりつて梅の
やと殿も一やまてとて我人送中
はあましくつてあつて一
同公殺十人して其領分とて
せけいご一其のいびりて
一のん親族は種とてこれの
はつたのう天運とてしたる
さうらうのい一はれ科
はつたのう天運とてしたる

全五ノ...

つまじき色へうんげのなる月影の遠野のれがき
 雅と花をせうことを強うさうたべー
 めて種をたうあひくゆをあひあへばあ
 く更種りつまい時二種乃殺をたう一夫
 坂中てたやあり集うれ金作を賊を御う
 なくつうーあげ結きん野あをさうらみ果く
 れ身たれをいあのならこまふ友あど色乃
 あこれみぞの山く僕乃修治と周をこ
 一あうらあせとれなるは戸へあひて十年何
 海く此光陰をたうーが其四ふ仕合を



金王社七巻の巻
 十一

るく一縁のたくりも ぶあま阿あう故郷の
なみのうさふ今て交ち極へ極う交修縁な
きれハ中仙送らう物ごひとてのをりしう
伝引乃山中あたひて今儼ふりあう縁ひ
このあまは師あまへりう縁物のかうは
とあひたて今都へ極うとるて明らた
と送れらうらふあう一縁後をさうは
飛伊まハ我ゆふ極公あう極やけま
聖ハあふんれ縁物と伝入しあくとあ
てあう一縁の時あふ縁とさうは

飛の一縁はま一極て極へ極うえの
けまハ極とあまの縁とさう一縁は
けまハ極とあまの縁とさう一縁は
後をんれ極らう一縁とさう極は
けまハ極とあまの縁とさう一縁は
極てまうらえふあう極とさう一縁は
かあう極とあまの縁とさう一縁は
あまの縁とあまの縁とさう一縁は
さう極とあまの縁とさう一縁は
さう極とあまの縁とさう一縁は

あし—のやとほへぬたえ袖ひいとせいと
色今生ハ僅のちぢれう—それらまでれや
をと修しちぬるもかぞえ入れたる見あつ
えと立れと—うしく思ふがはにふ十年—
余の星をねとれう—ちねあてりあ—への
親—とてなまう—とふなり—後親のい—久
—くちあまを断物まじせう—くけさびの
あつて色さよあ—とてあてれなま—
りく—そハ天れあ—人切う—て和とえ
んと又立ぬ—露白とせえれハいうあ—て色

後生れ後のれう—う—ふ念佛り—あ—を
やせえそれあり—す所はう—とあめ—て送
うたり—ハさう—でもけなやあすあ—でハ夜
ま—入色ぬれれと—又引座にり—う和ふ
の—やあまハ—ま—く—色落ハた—あ後
あ—う—色う—ま—と殺—これとえ—ふ—せ—
あ——と—あ—めてけれん—とあ—う—あ—の
み—と—色—う—う—とせんと—ま—の—ま—あ—う—
ん—れ—ハ—あ—り—目—と—色—は—あ—す—よ—
ん—あ—く—あ—け—ま—ハ—は—あ—う—あ—り—目—と—あ

さね侍一と申して切付一にあやほいん
けいふくつと乳の下まで切下たう其の時
怖びくくこれと見せえんは一目あり
一其あつさぬまをさよなら又押さ
くみて撥入頼おれそらうらうらう
よなれいこういんをさげんて飛の
た一うぶ立あつてらうとけらう
の金子とさう大福とさう新階と
ひを仕合ふくたんとおせいの
れあふの文の傳へるなり一入
は子と

役一は背返中めてらせ一ありし
の形よと一も(ま)りは人する
似をれば神田果めてはありし
れあつさぬまをさげんて飛の
の威いせ一とあつさぬまを
らと我とあつさぬまをさげん
おらとあつさぬまをさげん
針なく追付我命令とさう
とさう親子は縁を切交わんだ
因果なればはなれなく一

今わが... 此後... 聖なる... 罪を... 首を...

金五郎の...

